

10月9日（土） 9:30～11:30 A会場
地震計測・処理システム, 地震発生の物理 (A01～A10)
(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 大見士朗・井出 哲

9:30	A01	計器長1.2km相当の伸縮計・歪地震計の開発とその威力について	° 石井 紘・浅井康広・大久保慎人（東濃地震科学研）・山内常生（名大環境・地震火山・防災セ）・柳谷 峻・加納靖之（京大防災研・地震予知研セ）
9:42	A02	太平洋域・広帯域地震波形観測データ提供システム：データセンター間の連携機能の開発	° 水谷宏光・坪井誠司（IFREE/JAMSTEC）・井上公・根岸弘明・山品匡史(NIED)・新井拓也(富士通)
9:54	A03	韓国気象庁－防災科学技術研究所による広帯域地震波形データ交換	° 山品匡史・針生義勝・井上公・小原一成（防災科研）・韓世燮（韓国気象庁）
10:06	A04	P波極性の高精度自動読み取り手法の開発	° 山本俊六・堀内茂木（防災科研）
10:18	A05	CMTとモーメントテンソル時間変化の自動決定	° 原 辰彦（建築研究所国際地震工学センター）
10:30	A06	デコンボリューションを用いた深部低周波微動の震源決定	° 勝間田明男(気象大学校)・鎌谷紀子(気象庁地震火山部)
10:42	A07	状態空間モデルによる深部低周波地震の信号抽出の試み	° 大見士朗（京大防災研）
10:54	A08	プレート内応力の蓄積メカニズム	° 松浦充宏・寺川寿子・橋本千尋（東大理）・高田陽一郎（北大理）
11:06	A09	収束型プレート境界領域に於けるテクトニック・ローディング：日本列島域の地殻内応力場	° 橋本千尋・松浦充宏（東大理）

11:18	A10	フラクタルパッチモデルの動的破壊シミュレーション	° 井出 哲 (東大・理・地惑) ・青地秀雄 (IRSN, France)
-------	-----	--------------------------	---------------------------------------

10月9日 (土) 9:30~11:30 B会場

強震動・地震災害 (B01~B10)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 長 郁夫・神田克久

9:30	B01	1938年塩屋崎沖地震群の震源過程-経験的グリーン関数を用いたインバージョン解析-	° 芝良昭 (電力中央研) ・中村操 (防災情報サ) ・植竹富一 (東京電力)
9:42	B02	Source rupture process of the 1978 Miyagi-oki earthquake inverted from strong motion data	° Changjiang Wu ・ Kazuki Koketsu ・ Yoshiko Yamanaka ・ Kazuhito Hikima (ERI, Univ. Tokyo)
9:54	B03	1984年長野県西部地震の滑り分布の再検討：強震，遠地，測地データの一解釈	° 長 郁夫 ・ 宮腰研 ・ 香川敬生 (地盤研究財団)
10:06	B04	波形フィッティングによる1995年兵庫県南部地震の矩形強震動生成パッチ震源モデルの再推定	° 松島信一 (清水建設技研) ・ 川瀬 博 (九大人環研) ・ 佐藤俊明 (清水建設技研) ・ Robert Graves (URS Corp.)
10:18	B05	遺伝的アルゴリズムを用いた単純な震源モデルへの波形逆解析の試み	° 元木健太郎 ・ 瀬尾和大 ・ 山中浩明 (東工大)
10:30	B06	Analysis of slip-velocity function in source rupture models: implications for near-source strong motion modeling	° Martin MAI (Inst. Geophys., ETHZ) ・ T. van STIPHOUT (Inst. Geophys., ETHZ) ・ 岩田知孝 (京大防災研)

10:42	B07	震度インバージョン解析による 1923年関東地震と1703年元禄地 震の短周期発生域の比較	° 神田克久・武村雅之（鹿島小堀 研）・宇佐美龍夫
10:54	B08	スラブ内地震による強震動の予測 のための特性化震源モデルの設定 法	° 壇一男・武藤尊彦・宮腰淳一・ 渡辺基史(大崎総合研究所)
11:06	B09	スラブ内地震のアスペリティモデル (2)	° 笹谷努（北大理学研）・森川信 之（防災科研）・前田宜浩（北大 理学研）
11:18	B10	内陸地殻内地震のための特性化震 源モデルの検証	° 池田隆明(飛島建設)・釜江克宏 (京都大)・三輪滋（飛島建設）・入 倉孝次郎（京都大）

10月9日（土） 9:30～11:30 C会場

地震に伴う諸現象, 地球科学・地下水, 地殻変動・GPS・重力 (C01～C10)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 日置幸介・伊藤武男

9:30	C01	高時間分解能による地電位変化の 立体アレ観測	° 山田 守（名大環境）・中山 武（無）
9:42	C02	電離層を伝わる地震波：2003年十 勝沖地震のGPS観測	° 日置幸介（北大院理・地球惑星科 学）
9:54	C03	海底地殻変動による水中音響波の 発生について	° 松本浩幸・三ヶ田均・杉岡裕子 (JAMSTEC)
10:06	C04	1999年集集地震に伴った地下水変 化について	° 小泉尚嗣・松本則夫・北川有一 (産総研地質)・頼文基・謝正倫 (台湾成功大学)・李友平（台湾 水資源局）・山田聡治（勝島製作 所）

10:18	C05	JERS-1/InSARを用いて検出された1995年兵庫県南部地震の余効変動	° 小澤拓（防災科研）・矢来博司・飛田幹男（地理院）
10:30	C06	稠密GPS観測で得られた2003年十勝沖地震の余効変動とすべり分布	高橋浩晃・小山順二・笠原稔（北大院理）・加藤照之・中尾茂・宮崎真一・福田淳一・飯沼卓史（東大震研）・鷺谷威・伊藤武男（名大院理）・° 橋本学・大谷文夫・細善信・藤田安良・佐藤一敏（京大防災研）・松島健・河野裕希（九大院理）・岡崎紀俊（道立地質研）
10:42	C07	1964年アラスカ地震の余効変動モデル：粘性緩和と余効すべり	° 水藤尚（国土地理院）・Jeffrey T. Freymueller（アラスカ大学フェアバンクス校）
10:54	C08	1994年三陸はるか沖地震(M7.6)の余効的地殻変動に関する考察—有限要素コードGeoFEMを用いたモデル計算による比較—	° 皆川直哉（学芸大院教育）・里嘉千茂（学芸大教育）
11:06	C09	InSARデータを用いた1993年北海道南西沖地震のすべり分布の粘弾性インヴァージョン解析	° 伊藤武男(名大・院環境)・矢来博司(国土地理院)・吉岡祥一(九大・院理)
11:18	C10	有限要素法による多孔質媒質における地震の余効変動—スケンプトンのB値の組み込み—	° 川元智司・伊藤武男・平原和朗（名大・院環境）

10月9日（土） 12:30～13:45 A会場

若手学術奨励賞記念講演

（講演時間20分・質疑応答5分）

12:30	断層面形状の複雑化を考慮に入れ	亀 伸樹
-------	-----------------	------

		た地震破壊ダイナミクスの理論的研究	
12:55		摩擦現象の物理化学に関する実験的・理論的研究	中谷正生
13:20		常時地球自由振動の研究	西田 究

10月9日（土） 14:00～18:00 A会場

地震発生の物理（A11～A29）

（講演時間10分・質疑応答2分）

座長 松澤孝紀・山中佳子・内田直希・加藤愛太郎

14:00	A11	2つのアスペリティの連動的破壊に関する数値実験 -東南海・南海地震の発生をモデルとした場合-	° 黒木英州・高山博之・前田憲二(気象研)・伊藤秀美・吉田明夫(気象庁)
14:12	A12	断層帯の微細幾何構造と破壊過程の動的相互作用(1)：巨視的断層構成則の微視的再構築	° 安藤亮輔・山下輝夫（東大地震研）
14:24	A13	Eq': 放射エネルギーの新しい定義	° 福山英一（防災科研）
14:36	A14	単純セルモデルによる南海トラフ巨大プレート間地震および内陸地震の発生シミュレーションー半無限均質弾性体ー	° 平原和朗・光井能麻(名大環境)・西村宗(防災科研)・橋本学(京大防災研)
14:48	A15	On the Physical Mechanisms of Short- and Long-Interval Silent Slip Events in Deeper Subduction Interfaces	° 芝崎文一郎（建築研）
15:00	A16	動的モデル波形を用いた波形インバージョンによるDcとD'cの関係についての考察	° 安田拓美（東大・地震研）・八木勇治（建築研）・三雲健（UNAM）・宮武隆（東大・地震研）

15:12	A17	構造敏感体の分布と検出可能性	° 藤井直之(名大院環境)・熊沢峰夫(東濃地科学センター)
15:24	A18	2次元弾性体における地震すべりと摩擦溶融の相互作用の数値シミュレーション	° 松澤孝紀・武尾実(東大地震研)
15:36	A19	Temperature and Earthquake Faulting	° James Mori(京大防災研)・伊藤久男・松林修(産総研)・加納靖之・藤尾良・中尾節郎・當真正智(京大防災研)
15:48	A20	相似地震によって推定されたプレート境界の小アスペリティの分布とその性質	° 内田直希・松澤暢・岡田知己・長谷川昭(東北大・理)・五十嵐俊博(東大・地震研)
16:00		休憩	
16:12	A21	Parkfield周辺で発生する繰り返し微小地震の相似則	° 今西和俊(産総研)・William L. Ellsworth・Stephanie G. Prejean(U.S. Geological Survey)
16:24	A22	分岐断層系の応力場と破壊伝播ー1891年濃尾地震ー	° 三雲 健(メキシコ国立自治大)・福山英一(防災科研)
16:36	A23	2000年鳥取県西部地震域における断層強度の推定-多数のメカニズム解を用いて-	° 行竹洋平・飯尾能久・片尾浩・澁谷拓郎(京大防災研)
16:48	A24	南海トラフ付近で発生する超低周波地震のモーメントテンソル解	° 伊藤喜宏・小原一成(防災科研)
17:00	A25	南海トラフ沿いプレート間巨大地震のセグメント化のメカニズム	° 堀 高峰・馬場俊孝・小平秀一・金田義行(IFREE, JAMSTEC) 加藤尚之(東大地震研)・平原和朗(名大環境)
17:12	A26	DDトモグラフィー法による内陸地震震源断層とアスペリティのイメージング(3) 1995年兵庫県南部地震(M7.3)	° 岡田知己・長谷川昭(東北大理)・趙大鵬(愛媛大理)・Haijing Zhang・Clifford Thurber(Univ. of Wisconsin,

			Madison)
17:24	A27	2003年十勝沖地震震源域周辺における過去10年間の相似地震活動	° 松原 誠 (防災科研) ・ 八木勇治 (建研) ・ 小原一成 (防災科研) ・ 勝俣 啓 ・ 笠原 稔 (北大)
17:36	A28	1944年東南海地震の再解析	° 山中佳子 (東大地震研)
17:48	A29	2000年鳥取県西部地震余震域のb値の時空間変化	° 加藤愛太郎(東大地震研) ・ 中川茂樹(防災科研) ・ 飯高隆 ・ 平田直 ・ 吉田真吾(東大地震研)

10月9日 (土) 14:00~18:00 B会場

強震動・地震災害 (B11~B29)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 齋藤 誠・中原 恒・古村孝志・永野正行

14:00	B11	想定宮城県沖地震の震源域近傍における強震計アレイ観測 (序報)	° 中原 恒 ・ 高木伸昌 ・ 西村太志 ・ 佐藤春夫 (東北大・院理) ・ 藤原広行 (防災科研)
14:12	B12	K-NET即時データ公開システム	° 功刀 卓 ・ 藤原広行 ・ 安達繁樹 ・ 青井 真 (防災科技研)
14:24	B13	強震記録の長周期信頼限界についてーK-NET記録による検討ー	° 湯沢 豊 ・ 宮下 茂 (東電工業) ・ 植竹富一 (東京電力) ・ 工藤一嘉 (東大地震研)
14:36	B14	緊急地震速報の試験運用中の実績評価	° 齋藤誠 ・ 宇平幸一 ・ 東田進也 ・ 清本真司 ・ 塩津安政 ・ 森本雅彦 ・ 吉野昌史 ・ 山田尚幸(気象庁)
14:48	B15	情報利用者が防災情報として活用するための緊急地震速報の必要精度	° 浅原裕 ・ 大角恒雄 ・ 藤縄幸雄(リアルタイム地震情報利用協議会)
15:00	B16	地震時の死者低減に注目した住家の耐震性向上 (3) ー想定南海ト	° 太田裕 (東濃地震科研) ・ 能島暢呂 (岐阜大) ・ 中嶋唯貴 (愛知

		ラフ地震群と東海4県の場合ー	淑徳大)
15:12	B17	2003年7月26日宮城県北部の地震における建物被害に関する追加調査および復旧復興調査(その1)	° 柴山明寛(工学院大学大学院)・佐藤健・村山良之・平野信一・松本秀明・増田聡(東北大学)・久田嘉章(工学院大学)・源栄正人(東北大学)
15:24	B18	計測震度の物理的意味	° 青木治三(地震予知総合研究振興会、東濃地震科学研究所)
15:36	B19	1900年前後の被害地震の規模と震度	° 武村雅之(鹿島小堀研究室)
15:48		休憩	
16:00	B20	東海地震の関東平野における長周期地震動予測	° 土方勝一郎・植竹富一・金谷淳二(東京電力)・真下貢(東電設計)・早川崇・渡辺基史・佐藤俊明(大崎総合研究所)
16:12	B21	2003年十勝沖地震時の石狩平野北部の地震動と余震観測	° 吉田邦一(産総研・活断層研セ)・笹谷努・三浦尚志(北大・理)・宮原昌一(NTTコムウェア)・野口科子(気象庁)・山谷祐介(北大・理)
16:24	B22	北海道地域の深部地下構造モデル	° 鈴木晴彦・岩本鋼司・篠原秀明(応用地質株式会社)・藤原広行・青井 真・早川 讓(防災科技研)
16:36	B23	2003年十勝沖地震の3次元有限差分法による地震波動伝播シミュレーション(その2)	° 青井真・本多亮・森川信之(防災科研)・関口春子(産総研)・早川讓・藤原広行(防災科研)
16:48	B24	2003年十勝沖地震による長周期強震動	° 前田宜浩・笹谷努・三浦尚史(北大理)・高井伸雄・清水学(北大工)
17:00	B25	2003年十勝沖地震時の苫小牧地域における地盤増幅特性	° 永野正行・渡辺哲史(鹿島小堀研究室)

17:12	B26	2003年十勝沖地震の本震・余震記録に基づく最大速度のばらつきの検討	° 奥村俊彦・渡辺基史・藤原広行 (防災科研)
17:24	B27	震源深さの影響を考慮した工学的基盤での加速度応答スペクトルの距離減衰式	° 内山泰生 (大成建設技術センター)・翠川三郎 (東工大総理工)
17:36	B28	日高地方の強震動記録の特徴	° 森川信之・藤原広行 (防災科研)
17:48	B29	北海道－東北で見られる地震波の伝播・減衰異常 (4)－西南日本と東北日本の違い－	° 古村孝志 (東大地震研)

10月9日 (土) 14:00～17:48 C会場

地殻変動・GPS・重力 (C11～C28)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 浅井康広・木股文昭・藤田雅之・生田領野

14:00	C11	伊豆鳥島火山の地殻変動と地震活動	° 松島 健・杉本 健 (九大・地震火山センター)
14:12	C12	戸狩地殻活動観測点で観測された2004年7月27日岐阜県美濃中西部地震 (M4.5) に伴う地下水位変化と歪・傾斜地震動	° 浅井康広・石井 紘・青木治三 (東濃地震科研)・田中寅夫 (名城大理工)・笠原 稔 (北大院理)
14:24	C13	GPS データに基づく南アラスカにおけるスロースリップイベントとその時間発展の検討	° 太田雄策 (名大院 環境)・Jeffrey T.Frey Mueller・Sigrun Hreinsdottir (Univ. Alaska Fairbanks Geophys. Inst.)・水藤尚 (国土地理院)
14:36	C14	微動と同期した短期的スロースリップイベントのGPSによる検出の試み	° 廣瀬仁・小原一成 (防災科研)

14:48	C15	八重山諸島南方沖で繰り返し発生するスロースリップイベント	° 矢来博司・宗包浩志・西村卓也 (国土地理院)
15:00	C16	東海地域の二つの光波基線網で観測されていた1980・1988年前後の膨張の地殻変動	° 木股文昭・山内常生(名古屋大学・院環境)
15:12	C17	沈み込み帯における変位・重力の経年変化(2) - 東海地域における重力変化とスロースリップイベント -	° 奥野淳一・大久保修平 (東大地震研) ・田中愛幸 (国土地理院)
15:24	C18	東海スロースリップイベントと新潟神戸収束帯の位置関係	° 海津優 (国土地理院)
15:36	C19	西南日本マイクロプレートモデルのGPS水平変位及び震源分布による解析	° 當真正智 (京大防災研) ・木村政昭・中村衛 (琉球大学理学部)
15:48	C20	プレート境界と断層の力学 (2) - 高次変形効果と回転運動 -	° 大内徹 (神戸大学都市安全研究センター)
16:00		休憩	
16:12	C21	キネマティックGPS測位による前駆的異常地殻変動検出手法の開発 - 仮想スローイベントの精度検証実験 (2) -	° 佐藤一敏・橋本 学・細 善信・松尾成光 (京大防災研)
16:24	C22	海底地殻変動観測用新トランスデューサ導入にむけた水槽実験	° 望月将志 (東大・生産研) ・成田誉孝 (海洋情報部) ・吉田善吾・中村雅人 (東大・生産研) ・藤田雅之 (海洋情報部) ・浅田昭 (東大・生産研)
16:36	C23	海溝陸側における海底地殻変動観測 - 宮城県沖海底基準点の観測結果 -	° 藤田雅之・石川直史・佐藤まりこ (海洋情報部) ・望月将志 (東大生産研) ・片山真人・富山新一・矢吹哲一郎 (海洋情報部) ・浅田昭 (東大生産研)

16:48	C24	熊野灘中央部におけるGPS音響結合海底精密測位試験	° 藤本博巳・三浦哲・木戸元之・長田幸仁（東北大院理）・アーロン スウィニィ（JAMSTEC）
17:00	C25	熊野海盆におけるくり返し海底地殻変動観測	° 田所敬一・安藤雅孝・奥田隆・矢田和幸・高谷和典・杉本慎吾・生田領野（名古屋大学）
17:12	C26	黒潮海域における海中音速構造の空間変化と海底位置決定精度	° 矢田和幸・生田領野・安藤雅孝・奥田隆・田所敬一・久野正博*・杉本慎吾・高谷和典（名古屋大学, *三重県科学技術振興センター水産研究部）
17:24	C27	駿河湾での海底地殻変動観測における海中音速構造の時間変化の評価	° 杉本慎吾・生田領野・安藤雅孝・田所敬一・奥田隆・矢田和幸・高谷和典（名古屋大学）
17:36	C28	海中音速構造の時間変化を考慮した海底音響局測位解析	° 生田領野・杉本慎吾・安藤雅孝・田所敬一・奥田隆・矢田和幸・高谷和典（名古屋大）

10月9日(土) 18:00~19:00 P会場
ポスターセッション (P001~P060)

地震計測・処理システム

P001	IT強震計 –その概念と試作–	° 鷹野澄(東大地震研)・伊藤貴盛・原徹夫(応用地震計測)
P002	新世代海半球ネットワークの構築	° 石原 靖・幸 良樹・坪井誠司・水谷宏光・深尾良夫(IFREE/JAMSTEC)・森田裕一・綿田辰吾・竹内希・横山景一(東大地震研)・山田功夫(名大環境)・渋谷拓郎(京大防災研)
P003	SAO衛星通信サービスの地震観測への利用とその評価	° 卜部 卓・辻 浩・荻野 泉(東大地震研)
P004	Javaアプレットを用いたリアルタイムモニタリング表示	° 伊藤貴盛(応用地震計測)・林能成(名大災害対策室)・鷹野澄(東大地震研)
P005	村松式地震計を用いた長周期地震観測	° 大久保慎人・大井田 徹(東濃地震科学研)・村松郁栄(岐阜大名誉教授)
P006	広帯域地震観測網(F-net)における深発地震の検知能力(3) –東海道沖について–	° 松本拓己(防災科学技術研究所)
P007	加速度地震波形2回積分による変位算出に関する実験と考察	° 内山成和・横山幸也・太田賢治(応用地質)
P008	地震波重合処理で問題となるデータロガーノイズの存在	° 松村 稔・功刀 卓・小原一成・笠原敬司(防災科研)
P009	日本海における広帯域海底地震観測–ノイズレベルの時間変化–	° 中東和夫・篠原雅尚・塩原肇・山田知朗・酒井慎一・望月公廣・金沢敏彦(東大・地震研)・植平賢司(九大・島原)

P010	REIS（リアルタイム地震情報システム）における複数の地震が同時発生する場合の震源決定	° 上村彩・堀内茂木（防災科研）
P011	GRiD MTによって決定された地震のメカニズム解	° 鶴岡弘・川勝均・ト部卓・鷹野澄（東大地震研）

地震発生の物理

P012	スロースリップイベントとプレートの形状の関係	° 光井能麻・平原和朗（名大環境学）
P013	沈み込みプレート境界における余効すべり伝播速度の空間分布	° 有吉慶介・松澤暢・長谷川昭（東北大理）
P014	断層破碎帯の異方性と「弱い断層」に関する一考察	° 矢部康男(東北大・院理)
P015	Three-Dimensional Rupture Instability of a Slip-Weakening Fault Under Nonuniform Loading	° Koji UENISHI (RCUSS, Kobe Univ.)・James R. RICE (Harvard Univ.)
P016	Does Hyperelasticity Govern High-Speed Rupture?	° Koji UENISHI (RCUSS, Kobe Univ.)・Shuji NIGORIIE (Grad. School Sci. Tech., Kobe Univ.)
P017	Pseudo-Dynamic Rupture Characterization: Insights from Near-Source Ground Motion Simulations, and Recent Updates	° Hiroe Miyake (ERI, Univ. Tokyo)・P. Martin Mai (ETH Zurich)・Gregory C. Beroza (Stanford Univ.)
P018	個別要素法による断層すべりシミュレーションに基づく断層強度変化の考察	° 平山義人・岩瀬康行（防衛大）・松田裕也（国土交通省）
P019	分岐断層動力学モデルの地震波放射	° 内田浩二・亀伸樹（九大理）

P020	構造不均一性を考慮した地震発生物理モデルの解析	° 蓮見知弘（早稲田理工）・鴨川仁（学芸大教育）・山崎義弘（早稲田理工）
P021	野島断層における断層岩を用いた過去のアスペリティー検出の試み	° 川端訓代・田中秀実（東大理）
P022	南アフリカTauTona鉱山Mponeng鉱山における半制御地震発生実験の序報	° 森下健・小笠原宏（立命館大理工）・中谷正生・加藤愛太郎（東大地震研）・中尾茂（鹿児島大学）・飯尾能久・川方裕則・山田卓司（京大防災研）・山内常生（名大院環境）・石井紘（東濃地震研）・佐藤隆司・楠瀬勤一郎（産総研地震地質部）・大槻憲四郎・北佐枝子（東北大院理）・A.K. Ward (Seismogen CC)・R. McGill(Mponeng mine)・S.K. Murphy (TauTona mine)・A.J Mendecki,G. van Aswegen(ISS International Ltd)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
P023	南アBambanani金鉱山におけるM2地震のDouble-Difference法による高精度震源決定の試み	° 下田直之・竹内淳一・小笠原宏（立命館大・理工）・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
P024	南アフリカ金鉱山の地震波減衰構造と微小地震スケーリングへの影響	° 井出 哲（東大・理・地惑）・小笠原宏（立命館大学）・飯尾能久・山田卓司（京大防災研）・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
P025	南アフリカ金鉱山データを用いた地震モーメントとストレスドロップの関係	° 吉村三智頼・古本宗充・平松良浩(金沢大学)・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ

P026	南アフリカ金鉱山鉱山内地震による断層岩の解析	° 北 佐枝子・大槻憲四郎（東北大院理）・川方裕則（京大防災研）・小笠原宏（立命館大理工）・アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同グループ
P027	ボアホールアレイデータを利用した微小地震の震源パラメータ推定法	° 今西和俊（産総研）・William L. Ellsworth・Stephanie G. Prejean (U.S. Geological Survey)
P028	プレート境界の低Vp/Vs層に求まる2001年東海スロースリップの震源	° 木股文昭・太田雄作(名大環境)・根岸弘明・松原誠(防災科研)
P029	1938年に起きた複数の福島県東方沖地震の破壊過程(2)	° 室谷智子・菊地正幸・山中佳子・島崎邦彦（東大地震研）
P030	相模トラフにおけるアスペリティモデル	° 小林励司・瀬瀬一起（東大地震研）
P031	断層摩擦発熱モニターのための精密温度計測	° 伊藤久男・松林修（産総研）・加納靖之・藤尾良・中尾節郎・當眞正智・柳谷俊・James Mori（京大防災研）

地震に伴う諸現象

P032	御嶽山南東麓群発地震域周辺における自然電位分布	° 吉村令慧・山崎健一・大志万直人(京大防災研)
------	-------------------------	--------------------------

地球化学・地下水

P033	高温用温度観測システムの開発	° 宮島力雄・山内常生（名大院・環境）
------	----------------	---------------------

P034	1944年東南海地震と1946年南海地震に伴う和歌山県本宮町の温泉の変化	° 佐藤努・小泉尚嗣（産総研地質）・中林憲一（和歌山県）
------	--------------------------------------	------------------------------

地殻変動・GPS・重力

P035	九州地方の精細な重力異常図—高精度・無空白重力データベースの完成—	° 志知龍一（中部大工）・山本明彦（北大院理）・工藤健（核燃料サイクル開発機構）・足立守（名大院理）
P036	重力データから推定した九州中南部地域の地殻表層密度分布	° 名和一成・村田泰章（産総研）・志知龍一（中部大工）・山本明彦（北大院理）
P037	重力インバージョンによる石狩低地帯周辺の表層密度分布	° 山本明彦（北大・院・理）
P038	御嶽山群発地震域における絶対重力測定	° 田中俊行（東濃地震科研）・木股文昭・Irwan Meirano・宮島力雄（名大院環境）・青木治三（東濃地震科研）
P039	モンテカルロ法を用いた重力インバージョンによる地下構造解析と四国北西部における南北系断層の解明	° 市原 寛（愛媛大院理工）・榊原正幸・大野一郎（愛媛大理）
P040	新潟—神戸ひずみ集中帯の変位速度場に対するプレート運動の寄与	° 向井厚志（奈良産業大学情報学部）・藤森邦夫（京大院理）
P041	Robust and exploratory analysis of active mesoscale tectonic zones in Japan utilizing the nationwide GPS array	° 戸谷雄造・笠原 稔（北大理院）
P042	紀伊半島ヒンジラインGPSトラバース結果から推定されるプレート間カップリング	° 橋本学・大谷文夫・尾上謙介・細善信・佐藤一敏・藤田安良（京大防災研）

P043	G P S によって観測された2003年十勝沖地震の余効変動 G P S によって観測された2003年十勝沖地震の余効変動	° 小沢慎三郎・村上亮・海津優・今給黎哲夫・畑中雄樹(国土地理院)
P044	聞き取り調査と旧汀線高度測定に基づく1960年チリ地震 (Mw9.5) の余効変動	° 宍倉正展 (産総研・活断層研セ) ・ Cristian Youlton (Catholic Univ. of Valparaiso) ・ 澤井祐紀 (産総研・活断層研セ) ・ Brian Atwater (USGS) ・ Marco Cisternas (Catholic Univ. of Valparaiso)
P045	産業技術総合研究所安富観測点で再び観測された地殻歪変化	° 北川有一・小泉尚嗣・大谷竜 (産総研)
P046	箱根・小田原地域における光波測量とGPSの比較観測	° 原田昌武・棚田俊收・伊東 博 (温泉地学研究所)
P047	GPS観測に基づく 北マリアナ・アナタハン島の火山性地殻変動	° 渡部 豪・田部井隆雄 (高知大理) ・ 松島 健 (九大地震火山センター) ・ 加藤照之・中田節也・吉本充宏 (東大地震研) ・ Raymond Chong ・ Juan Takai Camacho (EMO, CNMI)
P048	2003年国産音響測位システムを用いたGPS/音響測位解析	° 舟越実・藤本博巳・スウィーニィ アーロン・日野亮太・三浦哲・長田幸仁・桑野亜佐子(東北大・理) ・川上太一(海洋電子(株))・矢吹哲一郎・藤田 雅之・河合 晃司(海上保安庁海洋情報部)

強震動・地震災害

P049	巨大地震による長周期地震動予測の重要性について	° 入倉孝次郎(京都大学)・釜江克宏(京都大学)・川辺秀憲(京都大学)
------	-------------------------	-------------------------------------

P050	高山・大原断層帯の地震を想定した地震動予測地図作成手法の検討	° 先名重樹(防災科技研)・谷和幸(ダイヤコンサルタント)・藤原広行(防災科技研)
P051	山崎断層周辺地域における強震動予測のための深部地下構造モデルの作成	° 岩本鋼司・鈴木晴彦・篠原秀明(応用地質)・藤原広行・早川讓(防災科技研)
P052	強震動評価の高精度化のための3次元ハイブリッドモデルの構築方法	° 趙伯明・香川敬生(地盤研究財団)
P053	大加速度入力時におけるRC造建物の地震動の破壊力指標についての検討	° 吉田研史・鈴木誠太郎(工学院大大学院)・久田嘉章(工学院大)・川瀬博(九大人間環境)・伏見実・生玉真也(日本原子力発電(株))
P054	1943年鳥取地震の建物被害の調査	° 西田良平・大田和行(鳥取大学工学部)・窪田彰夫(白兎設計事務所)・野口竜也(鳥取大学工学部)
P055	2003年イラン・バム地震における衛星回線を利用した被害収集システムの実験	° 柴山明寛・久田嘉章(工学院大)・市居嗣之(株式会社インフォマティクス)・滝澤修(情報通信研究機構)・小杉幸夫(東工大)
P056	2003年イラン・バム地震における建物の地震被害調査	° 久田嘉章・柴山明寛(工学院大)・M.Reza Ghayamghamian (IIEES)
P057	Accelerograms of The 2003 Bam Earthquake, Southeast of Iran (Mw=6.5)	° Arash JAFER GANDOMI・Sadaomi SUZUKI・Takeshi NAKAMURA・Takeshi MATSUSHIMA・Sayyed Keivan HOSSEINI (Kyushu Univ.)・Yoshihiro ITO (NIED)・Hossein SADEGHI (Ferdowsi UNIV.)・Mehdi MALEKI・Aghda FATEMI (NDRII)
P058	2003年7月26日宮城県北部の地震における建物被害に関する追加調	° 鈴木誠太郎・柴山明寛(工学院大大学院)・佐藤健・村山良之・平

	査および復旧復興調査（その2）	野信一・松本秀明・増田聡（東北大学）・久田嘉章（工学院大学）・源栄正人（東北大学）
P059	経験的グリーン関数法による2003年宮城県北部の地震の震源域における強震動の推定	° 宮腰淳一・神原浩・壇一男・佐藤俊明・早川崇・福喜多輝・佐藤智美（清水建設技研）
P060	3次元速度構造を考慮した2003年7月宮城県北部の地震の震源過程解析	° 引間和人・瀬瀬一起（東大地震研）

10月10日 (日) 09:00~11:24 A会場

地震予知 (A30~A41)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 筒井 稔・澁谷拓郎

9:00	A30	宇宙から見た雲の連状構造による地震予知の的中率 (的中数/予測数)	° 宇田進一 (ネットワーク・地球)
9:12	A31	地震前兆帯電の観測	Matveev Igor (地物究RAS) ・ ° 高橋耕三 (日本地震学会) ・ 矢崎 忍 (防災科研) ・ 藤縄幸雄 (REIC)
9:24	A32	地中励起の電磁波パルス検出による震源域の特定	° 筒井稔・前西健志 (京都産業大)
9:36	A33	地殻ブロック境界に見られる特徴的な地震活動	° 渡辺邦彦 (京大防災研)
9:48	A34	近畿北部における最近の地殻活動—異常な地殻活動の地震予知に向けての評価—	° 梅田康弘 (京大防災研)
10:00	A35	歪集中帯のメカニズムと近畿北部における最近および兵庫県南部地震前の地殻活動	° 飯尾能久 (京大防災研)
10:12	A36	山崎断層周辺の最近29年間の地震活動と夢前町付近の地震(2004年7月12日, Mj=3.9)の意味合い	° 澁谷拓郎 (京大防災研)
10:24	A37	最近丹波山地で発生した (予測された?) 地震 (M3.6) 前の地震活動静穏化パターン	° Bogdan ENESCU・片尾 浩・梅田康弘・伊藤 潔・James MORI (京大防災研)
10:36	A38	1944年東南海地震発生前の紀伊半島周辺の地震活動の特徴について	° 浜田信生・小林昭夫 (気象研究所) ・ 吉川一光 (仙台管区気象台)

10:48	A39	近畿中部における地殻変動連続観測に現れた異常変動	° 森井互・重富國宏・尾上謙介・中村佳重郎・大谷文夫・細善信・和田安男（京大防災研）
11:00	A40	深部地下水上昇による地表面象 - 再現した熱水上昇：東海地域焼津市内の井戸-	° 佃 為成（東大地震研）・上久保廣信（浜松市立神久呂中）
11:12	A41	高知県佐賀町における海水・淡水境界面の観測	° 浅田照行・重富國宏・梅田康弘・辰己賢一（京大・防災研）・木村昌三・川谷和夫（高知大・理・地震観）・大村 誠（高知女子大）

10月10日（日） 11:24～12:00 A会場
地震前兆現象の理論と観測：2003年十勝沖地震を契機として（A42～A43）
（A42, A43は講演時間12分・質疑応答3分）
座長 東田進也・西村卓也

11:24		要旨説明	川崎一朗
11:30	A42*	前駆すべりと地震の最終的サイズとの関係（レビュー）	° 吉田真吾（東大地震研）
11:45	A43*	1952年・2003年十勝沖地震の津波波源の比較 - 1952年津波の再検討に基づいて-	° 佐竹健治（産総研）・平田賢治（海洋研究開発機構）・谷岡勇市郎（北海道大学）・山木 滋（シーマス）

10月10日（日） 09:00～11:48 B会場
強震動・地震災害，学校教育と知識普及（B30～B43）
（講演時間10分・質疑応答2分）
座長 久田嘉章・関口春子

9:00	B30	解析信号ウェーブレットの「位相」：非線形不確定系の動的解析への適用	° 本田利器（京大防災研）・村上裕宣（中央復建コンサル）
9:12	B31	地震動のコヒーレンス特性	° 木下繁夫（横浜市大）・大池美保（アカシ）
9:24	B32	群遅延時間の平均値の分離と散乱理論に基づくエンベロープモデル	° 佐藤智美（清水建設技研）
9:36	B33	Estimation of source parameters, Qs, and site response for 2003 Miyagi-Oki Earthquake sequence.	° 津田健一・Julia Oakes・Jamison Steidl(Inst. Crust. Studies, UCSB)
9:48	B34	長周期地震動評価のためのQs値の周期依存性に関する検討	° 川辺秀憲・釜江克宏（京大原子炉実験所）
10:00	B35	統計的グリーン関数法の震源域及び長周期帯域への拡張（その1：広帯域で使用可能な震源時間関数とグリーン関数）	° 久田嘉章（工学院大学）
10:12	B36	統計的グリーン関数の震源近傍での特性とそのハイブリッド法への適用に関するコメント	° 堀家正則（大阪工大）・大西良弘（地域地盤研）
10:24	B37	断層破壊過程の複雑さの度合いが長周期強震動予測結果に及ぼす影響に関する検討	° 渡辺基史（清水建設技研）・藤原広行（防災科研）・佐藤俊明・早川崇・石井透（清水建設技研）
10:36	B38	強震動評価における不確定性についての検討	° 藤原広行（防災科研）
10:48	B39	活断層と海溝型地震を対象とした地震動予測地図作成手法の検討	° 石井透・藤原広行・早川讓（防災科研）・佐藤智美・佐藤俊明（大崎総研）・岡田康男・大橋泰裕・松島信一（清水建設）・篠原秀明（応用地質）
11:00	B40	大阪堆積盆地における地震動予測値図（上町断層系地震・南海地震）	° 関口春子・堀川晴央・加瀬祐子・吉田邦一・石山達也・佐竹健

		の暫定版)	治・杉山雄一・水野清秀 (産総研・活断層研セ)・Arben Pitarka (URS Corp.)
11:12	B41	動力的震源モデルに基づく強震動予測	° 入倉孝次郎 (京都大学)・三宅弘恵 (東大地震研)・佐藤俊明・壇一男・松島信一 (大崎総研)・香川敬生 (地盤研究財団)・Luis A. Dalgue (San Diego State Univ.)・Paul G. Somerville・Arben Pitarka (URS Corp.)・Gregory C. Beroza・Seok Goo Song (Stanford Univ.)・P. Martin Mai (ETH Zurich)
11:24	B42	学校での地震・地震防災教育 - なぜ教える必要があるのか? -	° 根本泰雄 (阪市大院理)・戸北凱惟 (上越教育大)・新井郁男 (放送大学)
11:36	B43	ワクワクとっとり「ハートワーク中ノ郷2004」 - 職場体験学習実践報告 -	° 中尾節郎・渡辺邦彦・矢部征・小田由香・澁谷拓郎 (京大防災研)

10月10日 (日) 9:00~12:00 C会場
地球及び惑星の深部構造と物性 (C29~C43)
(講演時間10分・質疑応答2分)
座長 利根川貴志・大林政行・田中 聡

9:00	C29	トモグラフィ手法の速度内挿に使われるHierarchic形状関数の次数決定方法の検討	° 関口渉次 (防災科研)
9:12	C30	Tomographic imaging of the Hokkaido and Tohoku forearc region under Pacific Ocean	° 王志・趙大鵬 (愛媛大・地球深部ダイナミクス研セ)

9:24	C31	臨時観測網の遠地地震を用いたチベット地域下の構造解析	° 山本啓二・趙大鵬・雷建設(愛媛大GRC)
9:36	C32	大西洋地域の3次元S波速度構造	° 松原邦明(愛媛大GRC)・小林励司(東大地震研)・趙大鵬(愛媛大GRC)
9:48	C33	フィリピン海プレートの3次元S波速度構造	° 一瀬建日(IFREE)・吉澤和範(北大理)・塩原肇(ERI/IFREE)・篠原雅尚・中東和夫・望月公廣(ERI)・杉岡裕子・末次大輔(IFREE)・金沢敏彦(ERI)・深尾良夫(ERI/IFREE)
10:00	C34	Hi-netデータによる上部マントル構造推定	° 利根川貴志・平原和朗(名大・環境)・澁谷拓郎(京大・防災研)
10:12	C35	IMS-arrayを用いた沈み込み帯におけるマントル不連続面の研究	° 今任嘉幸・山田朗・趙大鵬(愛媛大学・地球深部ダイナミクス研セ)
10:24	C36	遷移層付近を強くサンプルした波形から示唆されるスタグナントスラブに伴う構造的不均質	° 田島文子・中川剛史(広島大・院理)・深尾良夫・大林政行(IFREE)
10:36	C37	日本周辺下の660km不連続面の深さ分布と含水量・温度分布の推定	° 山田朗(愛媛大GRC)・末次大輔(IFREE)・井上徹・趙大鵬(愛媛大GRC)
10:48	C38	スラブとマントル遷移層との相互作用：リソスフェアの強度の影響	° 多川道雄・中久喜伴益・田島文子(広島大・院理)・吉岡祥一(九大理)
11:00	C39	グローバルトモグラフィーから見たホットスポットの起源	° 大田悠平・山田朗・趙大鵬(愛媛大GRC)
11:12	C40	マントル最下部の局所S波低速度異常	° 大林政行・吉光淳子(海洋研究開発機構・地球内部変動研セ)
11:24	C41	CMB反射波から求めた最下部マントル超低速度層の分布	° 出原光暉・山田朗・趙大鵬(愛媛大・地球深部ダイナミクス研セ)

11:36	C42	IMS地震アレイに記録されたPKP-Cdiff相の特徴	° 田中 聡 (東北大理)
11:48	C43	Is there lateral heterogeneity in the liquid outer core?	° 雷建設・趙大鵬(愛媛大・地球深部ダイナミクス研セ)

10月10日 (日) 13:00~17:00 A会場

地震前兆現象の理論と観測：2003年十勝沖地震を契機として (A44~A60)

(A44, A48, A55, A60は講演時間12分・質疑応答3分, それ以外は講演時間10分・質疑応答2分)

座長 束田進也・西村卓也

13:00	A44*	2003年十勝沖地震直前の地殻変動・地下水とプレート境界すべりの検知能力	° 西村卓也(国土地理院)・秋田藤夫(北海道立地質研究所)・廣瀬 仁(防災科技研)・松本則夫(産総研)・宗包浩志(国土地理院)
13:15	A45	1944年東南海地震直前の異常傾斜変動再考	° 鷺谷 威 (名大・環境)
13:27	A46	北海道東部におけるプレート間相互作用領域の深さの下限と地震サイクルを通じた歪収支	° 村上 亮・小沢慎三郎 (国土地理院)
13:39	A47	10の-4乗級コサイクミックストレインステップ直前の挙動-南ア金鉱山における半制御地震発生実験	° 竹内淳一・小笠原宏 (立命館大理工)・石井紘 (東農地震科学研究所)・中尾茂 (鹿児島大)・安藤雅孝 (名古屋大)・Gerrie Van Aswegen・Alex Mendecki (ISS International Ltd)・Shana Ebrahim-Trollope (Geohydroseis CC)・Artur Cichowicz・Peter Mountfort (ISS International Ltd)・井出哲 (東大・理)・南アフリカ金鉱山における半制御地震

			発生実験国際共同グループ
13:51	A48*	2003年十勝沖地震に先行した地震活動の静穏化と隣接域の現況について	° 勝俣啓・笠原稔（北大・理）
14:06	A49	2003年十勝沖地震前の地震活動変化および東海の活動との対比	° 松村正三（防災科研）
14:18	A50	2003年十勝沖地震に先立つ地震活動と地殻変動の特徴	° 山科健一郎（東大地震研）
14:30	A51	プレート沈み込み境界の大地震に先行する地球潮汐の地震トリガー作用	° 田中佐千子（防災科研）・大竹政和（東北大）・佐藤春夫（東北大理）
14:42	A52	破壊応力変化と発震機構分布の変化について	° 尾形良彦（統計数理研究所）
14:54	A53	相関のある複数の異常現象に基づく地震確率	° 井元政二郎（防災科研）
15:06	A54	震源要素と地殻変動の時系列解析による地震予知システム：2003/09/26-M8十勝沖地震の検証と2004/05/30-M6.7南房総沖地震の実例	° 武田文秀（(株)武田エンジニアリング・コンサルタント）
15:18		休憩	
15:28	A55*	地震の前に観測されるVHF(FM放送波)の散乱波-2003年十勝沖地震の場合-	° 森谷武男・茂木透・高田真秀・笠原稔(北大・理)
15:43	A56	数値モデル計算による十勝沖地震に伴う比抵抗変化の解釈	° 茂木透（北大・地震火山センター）
15:55	A57	十勝沖地震のNatural timeに基づいた研究（序報）	° 田中治雄（東海大学，アテネ大学）・P.VAROTSOS・N.SARLIS・E.SKORDAS（アテネ大学）

16:07	A58	大中規模地震データによるプレート境界の応力蓄積解放モデル	° 鷹野澄・鶴岡弘（東大地震研）
16:19	A59	反射係数の時間変化から推定される2003年十勝沖地震前後の間隙圧変化	° 鶴哲郎・朴進午・伊藤亜妃・木戸ゆかり・金田義行（海洋研究機構）
16:31	A60*	階層的破壊モデルでの中期的前駆すべりの特徴	° 加藤尚之・吉田真吾（東大地震研）
16:46		総合討論	山岡耕春

10月10日（日） 13:00～17:00 B会場
地球熱学, テクトニクス, 地殻構造 (B44～B62)
(講演時間10分・質疑応答2分)
座長 田中明子・高橋雅紀・吉田康宏・河村知徳

13:00	B44	2003年十勝沖地震で観測された深海底の泥流と地中温度	° 岩瀬良一(海洋研究開発機構)
13:12	B45	海底熱水活動の周期性 - 水曜海山カルデラ海底熱水域における例 -	° 田中明子（産総研・地質調査）・浦辺徹郎（東大院理）
13:24	B46	Shear-wave splitting in the Mariana trough	° Alexei Gorbatov・Theodora Volti・Hajime Shiobara・Hiroko Sugioka (IFREE, JAMSTEC)・Kimihiko Mochizuki (ERI, Univ. Tokyo)
13:36	B47	フィリピン海プレートの回転運動 海山の古地磁気からのアプローチ	° 植田義夫（海上保安大学校）
13:48	B48	日本列島のE-W短縮テクトニクスの原因とその開始時期	° 高橋雅紀(産総研・地質)
14:00	B49	関東・東海地方の経年的地殻変動場を説明するテクトニクスモデル(2)	° 宮下芳・杉本善教・河原純（茨城大理）・李建新（測位衛星技術(株)）・K. Vijaykumar(IIG)

14:12	B50	新プレート境界と関東南部のテクトニクス	° 石川有三（気象庁精密地震）
14:24	B51	応力テンソルインバージョン法により推定された日向灘における主応力のパターン	° 植平賢司・内田和也・松尾のり道・清水 洋(九大・地震火山センター)
14:36	B52	Focal Mechanism Analyses for South Korean Earthquakes	° 鄭泰雄 (世宗大學, KOREA) ・ Jong-Chan Park ・ Woohan Kim (Gyeongsang National Univ.)
14:48		休憩	
15:00	B53	屈折・広角反射法探査による九州，日奈久断層域の地殻構造	° 岩崎貴哉（東大・地震研） ・ 2003年九州日奈久断層域構造探査グループ
15:12	B54	オフラインレコーダを用いた三浦半島とその周辺部における3次元地下速度構造	° 河村知徳・平田直・佐藤比呂志（東大地震研） ・ David Okaya（南カリフォルニア大） ・ 大西正純・斉藤秀雄・野田克也（（株）地科研）
15:24	B55	関東地域におけるフィリピン海プレート上面の形状と反射特性	° 佐藤比呂志・平田 直・瀬瀬一起・岩崎貴哉・小林 励司（東大震研） ・ David Okaya (南カリフォルニア大) ・ 笠原敬司・松原 誠（防災科技研） ・ 伊藤谷生（千葉大） ・ 伊藤 潔（京大防災研） ・ 井川 猛・川中 卓・阿部 進（（株）地科研）
15:36	B56	紀伊半島でみられる顕著な後続波	° 山崎文人（名大環境）
15:48	B57	西南日本大学合同地震観測アレイを用いたフィリピン海プレートの検出	° 飯高隆（東大・地震研）
16:00	B58	反射波・前方散乱波解析による中国・四国地方におけるフィリピン海プレートのイメージング	° 土井一生・西上欽也（京大防災研）

16:12	B59	中国・四国地方におけるモホ面形状－海洋性モホ面と大陸性モホ面の同定－	° 汐見勝彦・小原一成（防災科研）・佐藤春夫（東北大・院・理）
16:24	B60	Waveform modelling for the crustal structure of western Japan	° Mohamed Farouk Abdelwahed (Ehime University)・Dapeng Zhao (Ehime University)
16:36	B61	広域地震観測網によるアクロス信号観測とその解析（その3）－第5回試験送信の解析結果－	° 吉田康宏（気象研）・高濱聡（気象庁）・針生義勝（防災科研）・國友孝洋・熊澤峰夫（サイクル機構）
16:48	B62	沈み込むプレート境界の連続的アクティブ・モニタリングの提案	° 笠原順三・鶴我佳代子・羽佐田葉子（東濃地科学セ）・山岡耕春（東大地震研）・國友孝洋（東濃地科学セ）・渡辺俊樹（名大環境科学）・吉田康宏（気象研）・藤井直之（名大環境科学）・熊沢峯夫（東濃地科学セ）

10月10日（日） 13:00～13:36 C会場

岩石実験・地殻応力（C44～C46）

（講演時間10分・質疑応答2分）

座長 桑原保人

13:00	C44	Modeling the damage creation in highly loaded materials or rocks as a critical phenomenon	° 雷 興林・Andre MOURA・西澤 修（産総研・地質情報）
13:12	C45	弾性波動による、ガウジを含んだ断層の破壊核形成過程を検出する試み(2)	° 谷戸 修・吉岡 直人（横浜市大・院・総合理学）

13:24	C46	岩石変形に伴う界面動電現象カップリング係数の変化	° 桑野修・吉田真吾・上嶋誠（東大地震研）
-------	-----	--------------------------	-----------------------

10月10日（日） 13:48～16:24 C会場
地殻応力測定：その意義・現状・今後の課題（C47～C56）
（講演時間10分・質疑応答2分）
座長 佐野 修・伊藤久男

13:48	C47	地殻応力測定：その意義・現状・今後の課題	° 伊藤久男（産総研）・佐野修（東大地震研）・水田義明（崇城大）
14:00	C48*	水圧破碎法における最大応力計測問題とその解決策	° 伊藤高敏（東北大学）・五十嵐 哲（東北大学）・伊藤久男（産総研）・加藤春實（ジオテクノス）・佐野 修（東京大学）
14:12	C49	ボアホールジャッキ式乾式破碎プローブの作用効果に関する数値シミュレーション	° 水田義明（崇城大）・李剛・石田毅（山口大）・佐野修（東大）
14:24	C50	ボアホールジャッキ式乾式破碎法による応力測定は実用可能か？	° 佐野修(東大地震研)・中山芳樹(3D地科研)・横山幸也(応用地質)・平田篤夫・水田義明(崇城大)
14:36	C51	インテリジェント型歪計を用いたオーバーコアリングによる応力測定	° 向井厚志（奈良産業大・情報学）・山内常生（名大環境学）・石井紘（東濃地震科学研）・松本滋夫（東大地震研）
14:48		休憩	
15:00	C52	内陸活断層帯周辺の応力測定とその意義	° 小村健太郎(防災科研)・池田隆司(北海道大)・山下 太・福山英一(防災科研)

15:12	C53	活断層応力場評価のための浅部応力方位測定法の開発	° 桑原保人・木口 努・佐藤凡子 (産総研)
15:24	C54	岩石コアを用いたレーザー干渉型地殻応力測定装置の開発 (その2)	° 川方裕則・三浦 勉・松尾成光 (京大防災研)・渡邊雅之 (京大院人環)
15:36	C55	地震波速度の応力依存性に関する理論的考察：Ⅰ. 圧力と速度の関係に関する測定データの解釈	° 山本清彦 (日本地震学会)
15:48	C56	地震波速度の応力依存性の深さ分布	° 古本宗充・平松良浩 (金沢大・自然科学)
16:00		総合討論	

10月10日 (日) 17:00~18:00 P会場
ポスターセッション (P061~P120)

強震動・地震災害

P061	強震観測網をアレイとして見立てたセンブルランス解析による2003年十勝沖地震のアスペリティ位置の推定	° 本多亮・青井真・森川信之 (防災科研)・関口春子 (産総研)・藤原広行 (防災科研)
P062	経験的グリーン関数法を用いた2003年十勝沖地震余震群の震源モデルの推定 -その2-	° 鈴木 亘・岩田 知孝 (京大防災研)
P063	Dynamic simulation of a dipping fault using a 3D-FDM - Part II: application to the 2003 Tokachi earthquake	° Wenbo Zhang・Tomotaka Iwata(DPRI, Kyoto Univ.)
P064	時間・空間的に連続なすべり速度関数を用いた1997年鹿児島県北西部地震の強震動シミュレーション	° 藤井雄士郎 (九大・情報基盤)・竹中博士 (九大・理・地惑)
P065	地殻内地震のやや短周期まで精度のある震源モデルの推定 — 1997年3月鹿児島県北西部地震と1997年山口県北部地震 —	° 宮腰 研・PETUHKHIN Anatoly・香川敬生 (地盤研究財団)
P066	震源インバージョンのモーメント速度関数から抽出したすべり速度関数 — 2000年鳥取県西部地震の場合 —	° 宮腰 研 (地盤研究財団)・羽田浩二 (ニュージェック)
P067	準動力学的円形クラックモデルに基づく中規模地震の破壊過程の推定	° 浅野公之・岩田知孝 (京大防災研)
P068	気象庁1倍強震計記録と地殻変動データを用いた1948年福井地震	° 松島信一 (大崎総研)・Gene Ichinose・Paul Somerville・

	(M 7.1) の断層破壊過程インバージョン	Hong Kie Thio (URS Corp.) ・ 佐藤俊明 (大崎総研)
P069	フィルタリングアルゴリズムによる震源動学的パラメータの直接インバージョンの試み	° 後藤浩之 (京大工) ・ 澤田純男 (京大防災研)
P070	強震動シミュレーションのためのすべり速度時間関数の近似式 (3) 2001年芸予地震への応用	安田拓美 ・ ° 宮武隆 (東大地震研)
P071	早期地震諸元推定手法による震度予測の可能性	° 中村洋光 ・ 小俊一 ・ 芦谷公稔 (鉄道総研)
P072	強震観測記録の平均的特性を反映した距離減衰式の導出 (その3) 地盤特性に関する補正項の検討	° 神野達夫 (広島大学) ・ 成田章 (三菱スペースソフトウェア) ・ 森川信之 ・ 藤原広行 (防災科技研) ・ 福島美光 (清水建設)
P073	スラブ内地震による強震動と島弧の構造: 2003年宮城県沖地震の強震データの解析	° 西條裕介 (神戸大院自然科学) ・ 笥 楽磨 (神戸大理)
P074	On Site Effect of EDCVEC Network in Turkey	Murat Beyhan(Earthquake Res. Dep., Ankara, TURKEY) ・ ° Toshiaki Yokoi(IISEE, BRI, Japan)
P075	強震データベースの開発 (2) -世界のデータ登録と検索機能-	° 工藤一嘉 (東大地震研) ・ 成田章 ・ 本間芳則 (MSS)
P076	地震動シミュレーションに海は考慮すべきか? (4) -海の深さと海水から影響を受ける地震動周期の関係-	° 畑山 健 (消防研究所)

地震予知

P077	関東M6地震b値モデルの検証 (2)	° 井元政二郎 ・ 山本菜穂子 (防災科研)
------	--------------------	------------------------

地震前兆現象の理論と観測：2003年十勝沖地震を契機として

P078	宇宙から見た雲の連状構造による地震予知のケーススタディ -2003.5/26.M7.0, 9/26.M8.0, 10/31.M6.8-	° 宇田進一（ネットワーク・地球）
P079	地震の前に観測されるVHF散乱波と地震との統計的性質	° 森谷武男・茂木透・高田真秀・笠原稔(北大・理)
P080	2003年十勝沖地震の前に観測された中波帯ノイズ現象について	° 松永昌太（新産業ディベロパーズ）・宇田進一（ネットワーク地球）・熊谷卓（新産業ディベロパーズ）
P081	カイ自乗検定による地震前兆証言の検討	° 浅原裕・池谷元伺・N.E.Whitehead(阪大院理)・U.Ulusoy(Hacettepe Univ., Turkey)
P082	2003年十勝沖地震による地下水位・自噴量の変化	° 松本則夫(産総研・地質)・秋田藤夫(道立地質研)・佐藤努・高橋誠・北川有一・小泉尚嗣(産総研・地質)

学校教育と知識普及

P083	第5回地震・火山こどもサマースクールMt.Rokkoのナゾ（速報）	° 数越達也（須磨友が丘高校），地震・火山こどもサマースクール実行委員会*,スタッフ一同
P084	高感度地震観測網・防災科研Hi-netの波形データを用いた地震教材の開発	° 伊東明彦（宇都宮大教育）・針生義勝・小原一成（防災科研）
P085	津波防災広報用CD-ROM「津波から命を守るために！」の製作	° 上野 寛・山崎貴之・松田康平（気象庁地震火山部）・相澤幸

		治・板東恭子（気象庁総務部）
P086	地震防災に関する高校教員・生徒の意識調査（序報）－地震防災教育の現状と課題－	° 中島 健（滋賀県立守山中学・高等学校）
P087	地域の被災体験を視覚化し伝承する－1945年三河地震の被災調査－	° 林能成・木村玲欧（名大・災害対策室）・阪野智啓・藤田哲也（愛知県立芸術大学日本画専攻）

地球熱学

P088	関東地域における広域深部地殻活動観測井を利用した温度検層	° 松本拓己（防災科学技術研究所）
------	------------------------------	-------------------

テクトニクス

P089	千島海溝における太平洋プレートの斜め沈みこみと前弧の横ずれ運動	° 田辺明広(高知大院理)・田部井隆雄(高知大理)
P090	地質学的制約による3Ma以前のフィリピン海プレートの運動とTTT三重会合点の安定性	° 高橋雅紀(産総研・地質)
P091	関東地方におけるフィリピン海プレート内地震の多様性とスラブの形状について	° 堀貞喜(防災科研)
P092	琵琶湖北東岸下のスラブ内地震の地震記象によるフィリピン海スラブの形状の検討	° 三好崇之（神戸大院自然）・石橋克彦（神戸大都市安全）
P093	沖縄トラフとその周辺の応力配置	° 久保篤規（防災科研）
P094	ナウル海盆における、白亜紀大規模火成活動	° 望月公廣(東大地震研)・マイク コフィン(東大海洋研)・オラ

		フ エルドホルム(ベルゲン大学)・ 平 朝彦(海洋研究開発機構)
P095	上昇マントルブルームについて (1)	° 江口孝雄 (防大、地球海洋)
P096	伸張場形成に必要なリソスフェア 底部のせん断力とリソスフェアの 厚さの関係	° 楠本成寿(東海大・海洋)・竹村恵 二(京大・地球熱学)

地球及び惑星の深部構造と物性

P097	モード間のカップリングを考慮し たスプリッティング関数の推定	° 古見山和男・小田仁 (岡山大 学)
P098	遠地実体波物理分散のリファレンス 周波数	° 大木聖子(東大地震研)・深尾良夫 (東大地震研, 海洋研究開発機構・ 地球内部変動研セ)・大林政行(海洋 研究開発機構・地球内部変動研 セ)・Guy Masters・Christine Reif(IGPP, UC San Diego)
P099	ScSp波から推定される北海道下の 太平洋プレートの形状	° 長田絹絵・吉澤和範・蓬田清(北 大理)
P100	鉛直に伝播する反射波を用いた日 本周辺下のCMB・ICB近傍の構造 の推定	° 山田 朗(愛媛大GRC)
P101	P'P'先行波に見られる顕著な南米大 陸直下の220km不連続面	° 綿田辰吾 (東大地震研)
P102	The crust and upper mantle discontinuity structure beneath Eastern Turkey inferred from receiver functions	° 艾印双・趙大鵬 (愛媛大・地球深 部ダイナミクス研セ)

岩石実験・地殻応力

P103	ガス圧式高温高圧変形装置を用いた岩石のP波速度測定法の開発	° 北村圭吾・増田幸治・高橋美紀・西澤修 (産総研)
P104	粘土鉱物の加熱剪断に伴う脱水プロセス	° 廣野哲朗(JAMSTEC)・田中秀実(東大)・中嶋 悟(東工大)
P105	振動による断層クリープ加速現象の実験的研究	° 堀 高峰・阪口 秀(IFREE,JAMSTEC)・吉岡直人(横浜市大)・金田義行(IFREE,JAMSTEC)

地殻応力測定：その意義・現状・今後の課題

P106	浅部応力場評価の問題点と解決に向けて	° 佐藤凡子・桑原保人・木口 努(産総研)
------	--------------------	-----------------------

地殻構造

P107	日本海溝宮城沖のプレート沈み込みに伴う地震発生帯のセグメント化	° 三浦誠一・高橋成実・仲西理子・鶴 哲郎・小平秀一・伊藤亜妃・金田義行 (海洋研究開発機構)
P108	相模トラフ周辺におけるフィリピン海プレート上面の詳細な形状	° 木村尚紀・笠原敬司・林広樹 (防災科研)・西沢あずさ (海洋情報部)・井川猛 ((株)地科研)
P109	Three-dimensional prestack depth imaging in the Nankai subduction zone off Shikoku Island, southwest Japan	朴進午・鶴哲郎・° 金田義行 (海洋研究開発機構)・EW9907/08 航海乗船研究者
P110	大大特・近畿圏地殻構造探査計画	大大特・制御震源地殻構造探査運営委員会・° 伊藤 潔 (京大防災研)

P111	紀伊半島南部の地殻深部構造	° 中川茂樹・小原一成・笠原敬司 (防災科研)
P112	Preliminary 2-dimensional crustal velocity structure in the southwestern flank of the Hidaka Collision Zone	° I. Fathi (茨城大・理工) ・宮下芳・河原純 (茨城大・理)
P113	相似地震の相関解析で検知された岩手山周辺の地殻構造の時間変化(2) —到達位相の解析	° 山脇輝夫・西村太志・浜口博之 (東北大理)
P114	人工地震を用いた富士山における地殻構造探査	° 及川 純・鍵山恒臣 (東大地震研) ・田中 聡 (東北大院) ・宮町宏樹 (鹿児島大) ・筒井智樹 (秋田大) ・池田 靖・瀧山弘明 (気象庁) ・松尾のり道 (九州大院) ・大島弘光・西村裕一 (北海道大院) ・山本圭吾 (京大防災研) ・渡辺俊樹・山崎文人 (名大院)
P115	DDトモグラフィ法を用いた長野県西部地域の3次元地震波速度構造	° 高井香里・堀内茂木(防災科研) ・岡田知己(東北大理) ・飯尾能久(京大防災研) ・関口渉次(防災科研)
P116	大容量デジタルレコーダを用いた制御震源及び自然地震観測による鳥取県西部地域の地殻不均質構造	° 中川茂樹 (防災科研) ・河村知徳・平田直・蔵下英司 (東大地震研)
P117	2000年鳥取県西部地震の稠密余震観測点を用いた遠地地震のPコーダ到来方向の推定とレシーバ関数解析	° 上野友岳・澁谷拓郎・伊藤 潔 (京大防災研)
P118	Relocation and 3D velocity structure for aftershocks of the 2000 W. Tottori earthquake using waveform cross correlations	° Bogdan ENESCU ・ James MORI (京大防災研)

P119	A numerical investigation of seismic waves propagating through anisotropy in the fault zone (2)	° 中村武史・竹中博士（九州大・理）
P120	断層で励起された地震波を用いた茂住一祐延断層の深部破碎帯構造の推定	° 儘田豊（京大防災研）・桑原保人（産総研）・西上欽也（京大防災研）・伊藤久男（産総研）

10月11日(月) 09:00~12:00 A会場
 地盤構造・地盤震動, 地震一般, 地震活動 (A61~A75)
 (講演時間10分・質疑応答2分)
 座長 尾鼻浩一郎・武尾 実・山田伸之

9:00	A61	島根県浜田市の常時微動特性	° 足立正夫(米工高)・元木健太郎・瀬尾和大(東工大)
9:12	A62	観測地震動から得られた水平動サイト特性・H/V特性と地下構造および微動のH/V特性	° 川瀬博(九州大学)・続博誉(九州電力)
9:24	A63	水平・鉛直アレイ観測から抽出した微動特性とその解釈	° 津野靖士(東大院工, 建築)・工藤一嘉(東大地震研)
9:36	A64	強震動評価のための浅部地盤モデルの作成と検討	° 先名重樹(防災科技研)・宇佐美光宣・岩崎悦夫(ダイヤコンサルタント)・藤原広行(防災科学技研)
9:48	A65	岩盤および地盤上の観測点ペアの強震記録に基づく地盤増幅度と地盤の平均S波速度の関係	° 藤本一雄(千葉科学大)・翠川三郎(東京工大)
10:00	A66	京都・大阪周辺の強震観測網で得られた長周期地震動のアレイ解析	° 山田伸之・岩田知孝(京大防災研)
10:12	A67	関東地域における広域深部地殻活動観測井を利用したVSP法速度構造調査(その2)	° 山水 史生(防災科学技研)
10:24	A68	2002年国府津松田断層・足柄平野地下構造探査(2):三次元モデルの構築	° 田中康久・瀬藤一起(東大地震研)・アフニマル(バンドン工科大)
10:36	A69	入力地震波動場に基づく、3次元建物-地盤相互作用解析法	° 飯田昌弘(東大地震研)
10:48	A70	浅間山山頂で観測される特異な長周期地震	° 武尾実・大湊隆雄・山本眞紀・青木陽介・及川純・中村祥・植田寛子・辻浩・小山悦郎・長田昇・卜部卓(東大・地震研)

11:00	A71	栃木県足尾地方の深部低周波地震活動の考察	° 植田寛子・武尾実・萩原弘子 (東大地震研)
11:12	A72	2003年十勝沖地震の震源域で発生した“とても低い”周波地震	° 石原 靖 (IFREE/JAMSTEC) ・小原一成・伊藤喜宏 (防災科技研)
11:24	A73	2004年3・4月に四国東部で発生した低周波微動の活動	° 中田令子・須田直樹 (広島大・院理)
11:36	A74	新しい時系列解析法を用いた四国西部における深部低周波微動の解析	° 中村祥・武尾実(東大地震研)・小原一成(防災科技研)
11:48	A75	四国沖西部南海トラフ地震発生帯の地震活動	° 尾鼻浩一郎・小平秀一・伊藤亜妃・坂口有人・金田義行 (海洋研究開発機構)

10月11日 (月) 09:00~12:00 B会場

地殻構造 (B63~B77)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 蔵下英司・小平秀一・佐藤利典

9:00	B63	伊豆小笠原北部の島弧衝突域の構造調査	° 金田義行・高橋成実・小平秀一・鶴哲郎・三浦誠一・朴進午・佐藤壮・伊藤亜妃・瀧澤薫・野徹雄 (海洋研究開発機構)
9:12	B64	マリアナ島弧-背弧系の地震波構造	° 高橋成実・小平秀一・伊藤亜妃 (海洋研究開発機構) ・Simon KLEMPERER (スタンフォード大学) ・金田義行・末広潔 (海洋研究開発機構)
9:24	B65	伊豆・小笠原弧の重力異常と地殻構造	° 富士原敏也 (海洋研究開発機構)

9:36	B66	反射法地震探査による利根運河からさいたま市東部に至る地下構造	° 山口和雄・横倉伸・加野直巳・大滝壽樹・伊藤忍・横田俊之・田中明子(産総研)
9:48	B67	海陸統合探査データによる西南日本弧下に沈み込むフィリピン海プレート上面の物理特性	° 蔵下英司・平田直・岩崎貴哉(東大地震研)・小平秀一・金田義行(海洋研究開発機構)
10:00	B68	南海・東南海地震破壊域セグメント境界で発見された最上部マントル異常低速度域	° 小平秀一・三浦誠一・藤江剛・伊藤亜妃・朴進午・金田義行(海洋研究開発機構・地球内部変動研セ)
10:12	B69	海底地震観測とHi-netデータを用いた南海トラフの地下構造の研究	° 平田貢・王志・趙大鵬(愛媛大・地球深部ダイナミクス研セ)・尾鼻浩一郎(JAMSTEC)
10:24	B70	ネットワークMT法観測から推定された紀伊半島西部における2次元比抵抗構造ー非火山性深部低周波地震域に対応した低比抵抗帯ー	° 山口覚(神戸大理)・上嶋誠(東大地震研)・谷川大致(神戸大自然科学)・小川勉(東大地震研)・村上英記(高知大理)・大志万直人(京大防災研)・塩崎一郎(鳥取大工)
10:36	B71	宮城県沖地震想定震源域付近の海陸合同地震波構造探査実験	東京大学地震研究所・海洋研究開発機構・東北大学理学研究科・北海道大学理学研究科・九州大学理学研究院・千葉大学理学部・山形大学理学部(発表者°金沢敏彦)
10:48	B72	宮城県沖で発生する大地震の破壊域とプレート境界面形状との関係	° 伊藤亜妃・藤江剛・三浦誠一・小平秀一・金田義行(海洋研究開発機構・地球内部変動研セ)・日野亮太(東北大院理)
11:00	B73	日向灘周辺における地震波速度構造	° 神谷眞一郎(海洋研究開発機構)・小林洋二(筑波大学)
11:12	B74	西フィリピン海盆北部の沖大東海嶺付近の地殻構造	° 西澤あずさ・金田謙太郎・片桐康孝・森下泰成(海洋情報部)・笠原順三(日本大陸棚調査(株))・宇納貞男・中島義成(地科)

			研)・久保田隆二・西山英一郎 (川崎地質)
11:24	B75	広帯域海底地震観測データによる 日本海大和海盆下の上部マントル 地震波速度構造	° 中東和夫・篠原雅尚・山田知 朗・酒井慎一・望月公廣・塩原 肇・金沢敏彦(東大・地震研)・植 平賢司(九大・島原)
11:36	B76	地殻構造Webデータベースの構 築： 地震研備船版	° 佐藤利典(千葉大・理)・森真 悠子(千葉大・理、現NTTドコ モ)
11:48	B77	JAMSTEC/IFREEにおける地殻構 造探査データベースサイトについて	° 瀧澤薫・鶴哲郎・木戸ゆかり・ 三浦誠一・Moe Kyaw Thu(海洋 研究開発機構)・橋本結(日本海 洋事業)・野徹雄・坪井誠司・金 田義行(海洋研究開発機構)

10月11日(月) 9:00~12:00 C会場

活断層と古地震, 津波 (C57~C71)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 林 広樹・都司嘉宣・阿部邦昭

9:00	C57	破碎幅の規則性から検討したC級 活断層問題	° 吉村辰朗・間野道子(復建調査 設計)
9:12	C58	反射法地震探査による庄内平野東 縁断層帯の地下構造	° 加藤直子・佐藤比呂志(地震 研)・今泉俊文(東北大)・越 谷 信(岩手大)・戸田 茂(愛 教大)・荻野スミ子(地震研)・ 越後智雄(東大理)・木村治夫 (地震研)・楮原京子(山梨 大)・森下信人・小林 勉・高橋 就一・梅津洋輔・水本匡起・氷高 草多・吉田明弘(東北大)・小 田 晋(東大理)・鈴木規眞(愛

			教大)・菅原泰丞・高橋利幸(岩手大)・小池太郎・佐藤 良(ジオシス)
9:24	C59	国府津－松田断層帯松田北断層におけるP波浅層反射法地震探査	° 木村治夫・佐藤比呂志(東大地震研)・伊藤谷生・宮内崇裕(千葉大理)・松多信尚(東大空間情報センター)・河村知徳(東大地震研)・石山達也(産総研活断層センター)・岡田真介(東大理)・加藤直子・荻野スミ子(東大地震研)・楮原京子(山梨大教育)・小田 晋(東大理)・石黒 梓・長谷川 悟・上条裕久・駒田希充・丸山友章・坂下尚久・森 智之・佐野順平(千葉大理)・野田克也・井川 猛(ジオシス)
9:36	C60	神奈川県山北町の島弧衝突域における陸上掘削の速報－大大特(I)大規模ボーリング掘削の成果－	° 林広樹(防災科研)・伊藤谷生(千葉大)・津久井雅志(千葉大)・上杉陽(都留文科大)・柳沢幸夫(産総研)・高橋雅紀(産総研)・宮内崇裕(千葉大)・山北聡(宮崎大)・竹下徹(広島大)・渡辺真人(産総研)・井川猛(地科研)・関口渉次(防災科研)・笠原敬司(防災科研)
9:48	C61	跡津川断層トレース近傍におけるVLF-MT探査：雁行状断層破碎帯の可能性	° 山下太・久保篤規(防災科研)・浦泰宏・山本卓・岩崎博史(富山大理)・ハスパートル(三和ボーリング)・酒井英男・竹内章(富山大理)・水落幸広(住鉱コンサルタント)・松田達生・小村健太郎(防災科研)
10:00	C62	三次元個別要素法による横ずれ断層発達過程のシミュレーション	° 竿本英貴・吉見雅行・国松 直(産総研・活断層研セ)

10:12	C63	安政東海地震(1854)の顕著余震について	° 都司嘉宣 (東大地震研)
10:24	C64	慶長九年十二月十六日(1605.2.3)の房総津波の新史料による検証	° 伊藤純一・都司嘉宣・行谷佑一 (東大地震研)
10:36	C65	目撃証言に基づく1952年十勝沖地震の津波波原の北側ないし北東側境界の検討	° 平田賢治 (海洋研究開発機構・地球内部変動研セ)・佐竹健治 (産総研・活断層研セ) 谷岡勇市郎 (北大・地震火山センター)・山木 滋 (シーマス)
10:48	C66	2003年十勝沖地震により厚岸町に出現した高い津波遡上高の数値計算による検証	° 長谷川洋平・林 豊 (気象研究所)
11:00	C67	1923年関東地震の津波波形解析	° 谷岡勇市郎 (北大・地震火山センター) 佐竹健治 (産総研・活断層研セ)
11:12	C68	驗潮記録を用いた1938年11月5日福島県東方沖地震の断層位置決定	° 矢沼 隆((株)パスコ)・都司嘉宣 (東大地震研)
11:24	C69	1944年東南海地震津波の目視観測記録 ー東大地震研究所の通信調査報告から	° 羽鳥徳太郎
11:36	C70	文化五年十月十七日 (1808.12.4) 四国・紀伊半島の「小南海津波」	° 行谷佑一・伊藤純一・都司嘉宣 (東大地震研)
11:48	C71	能登半島、若狭湾沿岸での湾及び港の卓越周期の観測	° 阿部邦昭 (日歯大新潟短大)

10月11日 (月) 14:00~16:36 A会場

地震活動 (A76~A88)

(講演時間10分・質疑応答2分)

座長 西村 宗・桑野亜佐子・和田博夫

14:00	A76	東海推定固着域の応力変化シミュレーションと地震活動度変化に関する考察	° 西村 宗・松村正三(防災科研)
14:12	A77	フィリピン海プレートに遮蔽された太平洋スラブの地震活動ー関東地域の二重深発地震面・脱水脆性化・火山フロントについてー	° 野口伸一（防災科研）・吉田明夫・細野耕司（気象庁）
14:24	A78	Shallow seismic activity in NE Japan forearc region revealed by sP depth phases	° Shantha SN GAMAGE・Norihito UMINO・Akira HASEGAWA (RCPEVE, Grad. School Sci., Tohoku Univ.)
14:36	A79	三陸沖海陸プレート境界における微小地震活動ーOBS震源を用いた相対震源決定によるー	° 桑野亜佐子・日野亮太・長谷川昭・藤本博巳（東北大・理）
14:48	A80	海底地震観測による1978年宮城県沖地震震源域周辺の微小地震活動(3)	° 山本揚二郎・日野亮太・西野実・桑野亜佐子（東北大理）・山田知朗・金沢敏彦（東大地震研）・橋本徹夫・青木元・草野富二雄・阿部正雄・太田健治・畠山信一（気象庁）
15:00	A81	気象庁一元化震源データにもとづくスラブ内地震の余震活動の検討	° 堀井陽子（神戸大院自然）・石橋克彦（神戸大都市安全）
15:12	A82	世界の沈み込み帯Trench-Outer-Riseにおける地震活動の特性	° 北 佐枝子・中島淳一・長谷川 昭（東北大理）・Stephen KIRBY(USGS)
15:24	A83	日本列島における歪速度分布と地震発生数の比較	° 谷村琢也・James MORI（京大防災研）
15:36	A84	中規模地震周囲のb値変化：スタッキングによる研究	° 塚越芳樹・島崎邦彦（東大地震研）
15:48	A85	Some features of background and clustering seismicity resolved by using stochastic declustering	° Jiancang ZHUANG, Yosihiko OGATA (Inst. Stat. Math.)

16:00	A86	岐阜県中部の地震活動	° 和田博夫・伊藤 潔・大見士朗・平野憲雄（京大防災研）
16:12	A87	御嶽山における臨時地震観測	° 山崎文人・山田 守・藤井 巖・田所敬一・伊藤武男・政所 茜（名大環境）・根岸弘明（防災科技研）
16:24	A88	松代群発地震活動再考	° 神定健二・小林正志・栢野一正・小山卓三・春原美幸・伊藤優・石川有三（気象庁精密地震観測室）

10月11日（月） 14:00～16:24 B会場

地殻構造（B78～B89）

（講演時間10分・質疑応答2分）

座長 吉本和生・武田哲也・趙 大鵬

14:00	B78	アレイ観測に基づく布田川ー日奈久断層系周辺域のP波散乱体分布イメージング	° 松本聡・渡邊篤志（九大・地震火山センター）・2003年九州日奈久断層域構造探查グループ
14:12	B79	Sコーダ波エネルギーの空間分布に見られる特徴	° 吉本和生（横浜市立大学）
14:24	B80	地震波の散乱強度分布からみた東北日本の地殻不均質構造	° 浅野陽一・小原一成（防災科研）・中島淳一・長谷川昭（東北大・院・理）
14:36	B81	東北日本における高周波数P波エンベロープ拡大現象の地域性	° 高橋努・佐藤春夫・西村太志（東北大理）
14:48	B82	Double-Difference Tomography法による跡津川断層帯周辺の不均質地殻構造	° 武田哲也・桑原保人・水野高志・今西和俊（産総研）・岡田知巳（東北大理）・伊藤潔・和田博夫（京大防災研）・針生義勝（防災科研）

15:00	B83	Double-difference tomography による九州地方下の3次元速度構造	° 東藤幸子・王志・趙大鵬（愛媛大・地球深部ダイナミクス研セ）
15:12	B84	速度不連続面とその深さ変化を考慮したdouble-difference tomography	° 趙大鵬・王志（愛媛大・地球深部研）
15:24	B85	Double-Difference Tomography 法による日本列島下の地殻・マントル・スラブ構造（その2：紀伊半島）	° 中島淳一・長谷川昭（東北大・院理）・Haijiang Zhang・Clifford H. Thurber（ウィスコンシン大）
15:36	B86	DDトモグラフィー法による2001年芸予地震震源域周辺の地震波速度構造（その2）	° 菅ノ又淳一・岡田知己・長谷川昭（東北大理）・Haijiang Zhang・Clifford Thurber（Univ. of Wisconsin, Madison）
15:48	B87	北海道および東北地方におけるS波偏向異方性	° 清水淳平・中島淳一・長谷川昭（東北大理）・小原一成（防災科研）
16:00	B88	白山火山周辺の三次元地震波速度構造	高橋直季（金沢大）・° 根岸弘明（防災科研）・平松良浩（金沢大）
16:12	B89	Study of Magma Body Changes and Volcanic Activities in Mt. Usu and Tokachi-dake Using the Local Tomography	° 金昭九（漢陽大学）・笠原稔（北大院理）・裴亨燮（漢陽大学）・一柳昌義（北大院理）・堀内茂木・根岸弘明（防災科技研）

10月11日（月） 14:00～17:00 C会場

地震の理論・解析法（C72～C86）

（講演時間10分・質疑応答2分）

座長 齊藤竜彦・竹内希・渡邊篤志

14:00	C72	先験情報を用いた火山性地震のメ	° 中野優（名大・環境学）・熊谷
-------	-----	-----------------	------------------

		カニズム解析	博之 (防災科研)
14:12	C73	異なるデータセットを使用した波形インバージョンによって得られる震源過程モデルの違いについて	° 八木勇治 (建築研究所)
14:24	C74	4体粒子モデルQDEMによる固体・流体が混在する媒質中の波動伝播シミュレーション	° 阪口 秀 (IFREE/JAMSTEC) ・堀 宗朗 (東大地震研) ・小国健二 (東大地震研) ・武井康子 (東大地震研) ・馬場俊孝 (IFREE/JAMSTEC)
14:36	C75	短波長不均質構造が地震波に及ぼす影響 VI: 位相ゆらぎ	° 西澤 修 (産総研, 地圏資源環境研究部門)
14:48	C76	半無限ランダム不均質媒質における実体波-表面波の変換散乱	° 前田拓人・佐藤春夫・西村太志 (東北大理)
15:00	C77	空隙群を含む2次元媒質中のSHコーダ波エンベロープ(3) —輻射伝達理論との比較—	° 河原 純 (茨城大・理) ・蓬田 清 (北大・理)
15:12	C78	マルコフ近似に基づく弾性波のエンベロープ導出法: ガウス型自己相関関数を持つ2次元ランダム媒質の場合	° 佐藤春夫 (東北大理)
15:24	C79	異方性をもつランダム媒質における波形エンベロープ: マルコフ近似を用いた理論的導出	° 齊藤竜彦 (産総研・学振)
15:36	C80	球対称TI媒質における浅い地震に対する理論波形計算手法	° 河合研志 (東大理) ・竹内希 (東大地震研) ・ゲラー ロバート (東大理)
15:48	C81	有限境界摂動理論の定式化	° 竹内 希 (東大地震研)
16:00	C82	山脈を通過する表面波の散乱	° 坪井誠司 (IFREE/JAMSTEC) ・C. Ji ・D. Komatitsch ・J. Tromp (Caltech)
16:12	C83	弾性波動のCIP-MOCモデリング	° 吉見雅行・竿本英貴 (産総研・活断層研セ)

16:24	C84	時間2次, 空間4次精度差分法の Optimally accurate演算子の導出 とその評価	° 平林伸康 (Schlumberger) ・水 谷宏充 (IFREE/JAMSTEX) ・ゲ ラー ロバート (東大)
16:36	C85	準球座標系差分法(2)	° 豊国源知・竹中博士(九大・理・ 地惑)・王彦賓(北京大・地球物理)
16:48	C86	複数震源・地震計アレイ観測に基 づく散乱体・反射面イメージング	° 渡邊篤志・松本聡 (九大・地震 火山センター)

10月11日(月) 13:00~14:00 P会場
ポスターセッション (P121~P180)

地殻構造

P121	跡津川断層周辺での深部地殻比抵抗構造探査計画の概要	° 大志万直人・上嶋誠・茂木透・吉村令慧・小山茂・和田安男・2004年跡津川断層周辺地殻比抵抗研究グループ
P122	Double-Difference Tomography法による布田川-日奈久断層帯周辺の3次元地震波速度構造	° 是永将宏・松本聡・清水洋(九大・地震火山センター)・2003年九州日奈久断層域構造探査グループ
P123	栃木県鬼怒川低地を横断するパイプロサイズ反射法地震探査	° 林広樹・笠原敬司(防災科研)・須田茂幸・川中卓(地球科学総合研究所)
P124	コーダ波の相互相関解析に基づく地震波伝播速度の推定	° 高木伸昌・佐藤春夫・西村太志(東北大理)
P125	大東海嶺群の地殻構造:大陸棚調査に基づく反射法地震探査(予報)	° 片桐康孝・西澤あずさ・小原泰彦・金田謙太郎・森下泰成(海洋情報部)・田中智之(日本大陸棚調査株式会社)
P126	埼玉県比企丘陵北部周辺における地質構造と珪藻化石年代に基づく反射法探査断面の解釈	° 横倉隆伸・山口和雄・加野直巳(産総研・地質情報研究部門)
P127	沈み込み帯のP波異方性速度構造-近畿・東海地方~関東地方-	° 石瀬素子(岡山大)・小田仁(岡山大)
P128	防災科研 Hi-net の最大振幅データに基づく日本列島下の三次元減衰構造	° 関根秀太郎・松原 誠・小原一成・笠原敬司(防災科研)
P129	走時データ解析による日本列島下のモホ不連続面の深さの推定(2)	° 勝間田明男(気象大学校)

P130	関東地方における太平洋・フィリピン海プレート最上部の低速度海洋性地殻	° 松原 誠・林 広樹・小原一成・笠原敬司 (防災科学技術研究所)
P131	レシーバ関数解析によるインドネシアの地殻構造の推定	° 村越匠 (防衛大)・竹中博士 (九大理)
P132	西表島周辺地域における地震発生層について	° 伊良部秀輔・中村衛 (琉球大学理学部)
P133	南西諸島下に沈み込んだフィリピン海プレートのイメージング	° 中村衛 (琉球大学理学部)
P134	十勝沖地震余震記録に見られる西南日本からの長周期逆伝播波動	° 松村 稔・小原一成 (防災科研)

地盤構造・地盤震動

P135	SPACアレイのための波の到来方向解析法：Henstridge法の検証	° 長郁夫 (地盤研究財団)・岩田貴樹 (防災科研)・篠崎祐三 (東京理科大学)
P136	反射法地震探査および重力探査を統合した琵琶湖における地下構造	° 井上直人 (京大・火山)・小島健司 (京大・理)・竹村恵二 (京大・地熱)
P137	2次元重力解析による山科盆地の基盤構造	° 井上直人 (京大・火山)・土志田正二 (京大・防災)・竹村恵二 (京大・地熱)
P138	重力探査を用いた静岡市清水地区における深部基盤構造の推定	° 山口紗織・坂井公俊・盛川 仁 (東京工業大学)・野津 厚 (港湾技術研究所)
P139	十勝平野南部における微動アレイ観測	アムール・アガン・° 山中浩明・元木健太郎・駒場信彦・上村康之・大田原薫 (東工大)・笹谷努・オウズ オゼル・三浦尚史 (北大理)・高井伸雄・清水学 (北大)

		工)
P140	Dipping structures beneath Northern Japan inferred from Receiver Function Analysis.	Alex Smith・° Toshitaka Baba (IFREE, JAMSTEC)
P141	表層地盤の増幅特性に関する検討	° 大井昌弘・水谷守・藤原広行 (防災科学技術研究所)
P142	大阪堆積盆地の表層速度構造モデルの作成	° 吉田邦一 (産総研・活断層研究セ)・山本浩司 (地域地盤環境研究所)・関口春子 (産総研・活断層研究セ)
P143	足柄平野で観測されるSP変換波	° 植竹富一 (東京電力)・工藤一嘉 (東大地震研)
P144	小スパン3次元地震観測アレイ記録による京都盆地東南部の地震動特性	° 岩田知孝・山田伸之 (京大防災研)
P145	平野内に展開された鉛直アレイ観測にもとづく広帯域3成分地震動評価法の検討ー礫質不整形地盤 (小田原久野地点) を事例としてー	° 佐藤清隆・芝良昭 (電中研)・東貞成 (電中研, 文部科学省)・末広俊夫 (東京電力)
P146	2004年8月10日奈良大塔村斜面崩壊でのHi-netデータ解析 -土砂崩壊検知への応用-	° 大角恒雄・小原大輔・秦吉弥 (日本工営)・浅原 裕 (先端力学シミュレーション研究所)

地震一般

P147	テレビ電話機能付き携帯電話による地震情報通知システム	° 根岸弘明・山本俊六 (防災科研)・NTTドコモ
P148	福井地震断層付近で発生する地震の特徴について	° 岡本拓夫 (福井工業高専)・平野憲雄・竹内文朗・西上欽也 (京大防災研)

P149	観測最大震度地図の作成 (1560-2004)	° 宮澤理稔・James MORI (京大防災研)
------	----------------------------	---------------------------

地震活動

P150	神奈川県西部における震源ならびにメカニズム分布と”神奈川県西部地震”想定断層との関係	° 棚田俊收 (神奈川県温泉地学研)
P151	1976-1996 年の北陸観測所震源マップの概要	° 竹内文朗 (京大防災研)・平野憲雄・松村一男・西上欽也・岡本拓夫 (福井高専)
P152	Relocation of earthquake hypocenters in the southwest Japan by double-difference method using JMA catalogue JMA1	° 白 玲・川崎一朗 (京大防災研)・石川有三 (気象庁精密地震)
P153	山陰地方の地震活動と重力異常の関係	° 野口竜也・西田良平(鳥取大学工学部)・渡辺邦彦・板場智史(京大防災研)
P154	2004年5月29日 韓国地震(ML5.2)の震源パラメータ	° Sun-Cheon PARK・James MORI (京大防災研)
P155	The central Philippine Fault Zone: location of great earthquakes, slow events, and creep activity?	° Glenda.M.BESANA (Nagoya University)
P156	活断層における地震活動サイクル その1 -日本の主要断層とアメリカ・サンアンドレアス断層-	° 板場智史・渡辺邦彦(京大防災研)
P157	DD法による東北地方下スラブ内地震の震源再決定ー二重深発地震面の空間分布ー	° 菅ノ又淳一・岡田知己 (東北大理)・迫田浩司 (気象庁)・長谷川昭 (東北大理)

P158	関東地方におけるフィリピン海プレートに関連した小繰り返し地震活動	° 木村尚紀・笠原敬司 (防災科研)・五十嵐俊博・平田直 (東大震研)
P159	南海地震震源域付近における地震活動	° 木村昌三・川谷和夫 (高知大理)
P160	3-Dインバージョンによる九州-四国西部地方における深発地震面及び深部低周波震源の再決定	° 守田匡宏・James MORI (京大防災研)
P161	b値の時空間変化及びETASモデルを用いた東北日本太平洋沖合いにおける地震活動のモニタリング	太田健治・° 青木元 (仙台管区気象台)
P162	九州地方におけるb値の空間分布	° 岩切一宏 (福岡管区気象台)
P163	1999年台湾集集地震におけるb値とアスペリティについて	° 藤尾良・James MORI (京大防災研)
P164	低周波微動の自動モニタリング (1)	° 須田直樹・山根清和・中田令子・久須見健弘 (広島大院理)
P165	南海トラフ付近に発生する超低周波地震活動	° 小原一成・伊藤喜宏 (防災科技研)
P166	深部低周波微動の発生機構について	勝間田明男(気象大学校)・° 鎌谷紀子(気象庁地震火山部)

活断層と古地震

P167	地表地震断層と深部起震断層の対応関係についての検討	° 北田奈緒子 (地盤研究財団)・井上直人・竹村恵二 (京大理)・香川敬生・岩城啓美 (地盤研究財団)・堤 浩之・岡田篤正 (京大理)
P168	2003年イラン南東部・バム地震に伴う地表変位-バム断層との関連を中心に	° 奥村晃史 (広島大)・吾妻崇・近藤久雄 (産総研・活断層研究セ)・越後智雄 (東京大)・

		Khaled HESSAMI (国際地震工学地震研究所)
P169	余震分布より推定した2003年イラン・バム地震の震源断層・アルゲバム断層—バム断層との関連—	° 鈴木貞臣・中村武史・松島健・Arash JAFER GANDOMI・Sayyed Keyvan HOSSEINI (九大理)・伊藤喜宏(防災科研)・Hossein SADEGHI(フェルドウシ大)・Aghda FATEMI・Mehide MALEKI (イラン自然災害研究所)
P170	糸魚川—静岡構造線活断層系の断層活動と犀川丘陵の変動地形	° 松多信尚(東大・空間情報科学)・田力正好(東大地震研)
P171	1847年善光寺地震の震源断層モデル	小久保一哉・° 石川有三(気象庁精密地震)
P172	深溝断層海域延長部における海底活断層調査	° 阿部信太郎・宮腰勝義・井上大榮(電中研)・岡田篤正(京大)
P173	歴史地震の震源域位置および規模の系統的再検討—第6報— (象潟地震など)	° 松浦律子((財)地震予知振興会)・中村 操・唐鎌郁夫・茅野一郎(防災情報サ)

津波

P174	1952年と2003年の十勝沖地震における厚岸湾周辺の詳細な津波遡上高分布	° 林 豊・長谷川洋平(気象研究所)・蒲田喜代司・家常昌洋・柳沼秀之・谷内一弘(釧路地方気象台)・松山輝雄・小林政樹・上川明保(札幌管区気象台)
P175	小さな小断層を用いた津波波形インバージョン法の提案とその44年東南海・46年南海地震への適用	° 馬場俊孝(海洋研究開発機構・地球内部変動研セ)・Phil Cummins(Geoscience Australia)・谷岡勇市郎(北大・地震火山センター)

地震の理論・解析法

P176	常時地球自由振動の励起源の空間分布	° 西田究(東大地震研)
P177	Membrane Surface Wave Synthetics: Comparison with Finite Difference Seismograms	° 岡元太郎(東工大)・谷本俊郎(UCSB)
P178	グリッドに一致しない不連続面がある場合における高精度理論波形計算手法の導出：物理的考察	° 水谷宏光(IFREE)・ゲラーロバート(東大)
P179	差分法による動的破壊過程計算における断層境界条件の改良	° 宮武隆・木村武志 (東大地震研)
P180	最短経路波線追跡におけるノード配置の不規則性の効果	° 干野真(北大・理)